【あらすじ】

東条美容外科の御曹司で私立医大1年生の魁斗は、友人の北澤らに茶化されつつも、同級生の華純への告白を成功させ喜んでいた。一方、魁斗と華純の友人・千明もまた魁斗に想いを寄せていた。

千明の気持ちを知らない魁斗と華純は、充実した時を共有し幸せの絶頂にいた。そんなある日、魁斗は、華純への誕生日プレゼントを買った帰り道、華純と中年男・立花のキス現場を目撃する。華純はパパ活をしていた。

ショックを受けた魁斗だが、華純が極貧故にパパ活で学費を稼いでいると知り、更に千明からも華純と別れるのは可哀想だと説得されたため、悩んだ末華純を受け入れる。しかし、今度は華純が風俗嬢でもあると知り心が壊れた魁斗は、優しく励ましてくれた千明を抱いてしまう。

それ以降、魁斗は千明の「私と寝るのは嫌

な事を吐き出して華純の前で笑顔でいるため」という言葉を免罪符に、千明と体の関係を続ける。一方で、華純も勤務先の風俗店の客や同僚からの評判が悪く、精神的に追い詰められていた。

そんな三角関係が続くある日、魁斗は、華純の母に千明との浮気がバレる。だが逆に、風俗嬢の華純と交際を継続していることを感謝されたことで、とうとう罪悪感に耐え切れなくなり、自分の資産を華純の学費に充てようと決心する。そして、通帳を持って立花と華純の前へ姿を現すが、パパ活契約の解除を恐れて立花に彼氏の存在を隠していた華純は、咄嗟に「魁斗は彼氏ではなくストーカー」と言ってしまう。唖然とする魁斗を庇った千明は、華純の前で「魁斗の彼女は私だ」と魁斗にキスする。

後日、自暴自棄になった魁斗は、華純を「汚らわしい売春婦」と罵倒したことで、華純も鬱憤が爆発する。

それ以降、魁斗は部屋に閉じこもるが、北澤に「体を売ってまで極貧の現状を打破しようとする恋人を支えず、ただ現実逃避に耽るカス」と罵倒されたことで、目を醒ます。

魁斗は千明との関係を清算し、これからは華純の現実を共に背負い支えると誓い、華純と和解するのだった。

【登場人物表】

東条魁斗（19）（24）大学1年生

姫宮華純（19）大学1年生

夏川千明（19）大学1年生

立花総助（48）華純のパパ活相手

姫宮香織（35）華純の母親

東条次郎（55）魁斗の父親

東条智子（50）魁斗の母親

北澤賢介（19）魁斗と千明の友人

南野悟志（19）魁斗と千明の友人

西川礼（19）魁斗と千明の友人

マオ（29）風俗嬢

ヘブンズロード店長

高級ジュエリー店員

飼育員

○聖教医科大学・外観（夕）

『聖教医科大学』とある。

○同・裏門（夕）

姫宮華純（１９）、そわそわと周囲を見る。

スマホのインカメラで前髪を整える。

○同・部室棟・部室・内（夕）

床にはフットサルボールやスパイク、

医学書などが、麻雀卓には麻雀牌やト

ランプが散乱している。

東条魁斗（１９）、北澤賢介（１９）と向かい

合う。

その横に南野悟志（１９）と西川礼（１９）。

魁斗「好きだ！付き合ってくれ！」

北澤「そ、そんな……いきなり……」

魁斗「ずっと好きだったんだ！」

北澤「そ、そんな……いきなり……」

魁斗「へ、返事は！？」

北澤「そ、そんな……いきなり……」

魁斗、スリッパで北澤の頭を叩く。

魁斗「お前はＮＰＣか？」

北澤「何で俺が練習相手せなアカンねん」

北澤、魁斗に名刺を投げる。

北澤「もし失敗したら奢ったるわ」

黒と金の名刺には、女の源氏名と『ヘブンズロード』という店名。

南野「そこ高いぞ、北澤」

西川「ついに魁斗も１９で卒業か」

魁斗「誰が風俗なんぞ行くか」

魁斗、名刺を破り出て行く。

〇同・裏門（夕）

帰宅する夏川千明（１９）、華純に気付く。

千明「華純！何してんの？」

華純「あ、千明……いや、その……」

千明「あ～ん？」

華純の顔を覗き込む千明。

華純「……実は、東条君に……」

千明「魁斗？」

もじもじする華純。

千明「……まさか」

千明、遠くから来る魁斗に気付く。

千明「ヤバ……！」

物陰に隠れる千明。

魁斗「姫宮さん！ごめん、遅くなって」

華純「いえ、全然……」

魁斗・華純「……」

魁斗「ひ、姫宮さん！」

華純「は、はひ！」

魁斗、深呼吸。

魁斗「好きです！俺と付き合って下さい」

華純「あ、わ、私なんかで……良ければ……」

千明「……ッ！」

魁斗「……マジで？」

華純、小さく頷く。

魁斗「よっしゃああ！」

魁斗、ガッツポーズで咆哮。

○駅前（夜）

魁斗と華純を尾行する千明。

華純「じゃあここで……」

魁斗「夜遅いし家まで送るよ」

華純「……こ、この後予定があって」

魁斗「ああ……じゃあここで」

魁斗、華純の肩を掴む。

華純「え……」

唇を突き出す魁斗。

千明「は？」

華純「あ、あの……！」

華純、魁斗の頬をはたく。

華純「ご、ごめんなさい！」

走り去る華純。

呆然とする魁斗、爆笑する千明に気付く。

千明「初日でキスって！さすが童……」

魁斗「（遮って）ミスったああ！」

魁斗、頭を抱えて咆哮。

〇東条邸・外観（夜）

豪邸。

○同・リビング・内（夜）

東条次郎（５５）と東条智子（５０）、学費納入通知書を見ている。

魁斗、入ってくる。

魁斗「ただいま」

次郎「お前、大学中退するつもりか？」

魁斗「え？」

次郎「後期の学費払ってないじゃないか！」

次郎、魁斗に学費納入通知書を見せる。

魁斗「あ、渡すの忘れてた」

智子「しっかりしてよ、高いんだから」

次郎「６年で３５００万だぞ」

魁斗「ごめん。まあ、東条美容外科の跡継いだらすぐ回収できるって」

魁斗、出て行く。

○聖教医科大学・教室・内

英語の講義中。

千明の横でニヤつく魁斗。

千明「キモいんだけど」

魁斗「華純とのキスを妄想してるだけだ」

千明「うげぇ」

講師「講義は以上だ。東条、何か質問は？」

東条「華純のスリーサイズとか？」

千明、魁斗の椅子を蹴飛ばす。

転倒する魁斗。

〇同・正門（夕）

魁斗、遠くから来る華純に気付く。

魁斗「（大声で）姫宮～！」

魁斗、ブンブンと手を振る。

他の学生が華純を見る。

華純「と、東条君てば……！」

と、バッグで顔を隠す。

〇同・部室棟・部室・内（夕）

北澤が寝ている。

千明、入ってくる。

千明「ねえ、華純知らない？」
北澤「魁斗とデートやろ」
千明「ああ……」
去る千明。
○遊園地・表（夜）
魁斗と華純、イルミネーション化されたアトラクションに目を奪われる。
魁斗「こりゃすげぇな」
華純「こんなの初めて見ました」
魁斗、華純の手を握る。
華純「！」
魁斗「嫌か……？」
魁斗と指を絡める華純。
魁斗「……ッ！」
華純「行きましょ！」
華純、魁斗を引っ張る。
○デートの様子をモンタージュ（夜）
ジェットコースター。

叫ぶ魁斗と顔を伏せる華純。

×　×　×

グッズショップ。

お揃いのカチューシャを付けて自撮りする魁斗と華純。

×　×　×

コーヒーカップ。

回しまくる魁斗と笑顔で叫ぶ華純。

○遊園地・内（夜）

スイーツを食べている魁斗と華純。

魁斗、観覧車を指す。

魁斗「観覧車乗ろうよ」

華純「あ……えっと……」

魁斗、華純を引っ張る。

○アイスクリームショップ・内（夜）

千明、ひとりで3段アイスクリームを食べている。

他の客はカップルばかり。

千明「……」

千明の後ろに座る女が椅子を引く。

千明の椅子に直撃し、3段アイスクリームの1つが床に落ちる。

千明「あ……」

後ろの女、気付かずに男と出て行く。

千明「……仕方ない、よね……」

千明、落ちたアイスを眺める。

○遊園地・観覧車・ゴンドラ（夜）

対面で座る魁斗と華純。

魁斗、窓の外を見る。

魁斗「すげぇな」

震えている華純。

魁斗「……どうかした？」

華純「実は、高いところが……」

魁斗「え！まさか高所恐怖症！？」

華純「ご、ごめんなさい……」

魁斗、華純の隣に座り、肩を抱く。

華純「あ……」

魁斗「ごめんな……喜ぶと思って……」

華純「そんな……」

魁斗「綺麗だから、一瞬見てみようよ」

恐る恐る景色を見る華純。

華純「ホントだ……！綺麗！」

魁斗「怖くない？」

華純「大丈夫です……東条君となら」

華純、魁斗の目を見つめる。

魁斗「姫宮……」

目を閉じる華純。

魁斗、華純と唇を重ねる。

離れる。

華純、顔を真っ赤にして、

華純「……もう1回……魁斗君……」

魁斗「ッ！」

魁斗、華純に唇を押し付ける。

〇ホテル・部屋・内（夜）

魁斗、華純をベッドに押し倒す。

魁斗「悪い……俺も初めてで」

華純「……」

華純、魁斗の首に手を回す。

体を重ねる魁斗と華純。

○アパート・外観（朝）

外壁の崩れや変色がある木造アパート。

○同・姫宮家・玄関兼リビング（朝）

姫宮香織（35）、靴下の穴を縫っている。

華純、帰宅する。

華純「ただいま」

香織「おかえりなさい。華純、わざわざ嘘の連絡しなくていいのよ？」

華純「え？」

香織「（ニヤニヤと）彼氏といたんでしょ？」

華純「え、あ、ち、違……」

香織「イチャラブしてたんでしょ？」

華純「し、してない！」

微笑む香織。

華純、香織が縫う靴下に気付く。

華純「……新しいの買わないの？」

香織「まだ履けるわよ」

華純「……ごめんね……私が国立に、」

香織「（遮って）だから華純は何も悪くないって言ってるでしょ？怒るよ」

華純「……」

香織「その代わり、初任給の半分は私に使ってもらおうかなぁ」

華純、笑う香織を見つめる。

○高級ジュエリー店・内（夕）

千明、ショーケースに並ぶアクセサリーを眺める。

魁斗、キョロキョロしていると、立花総助（48）とぶつかる。

魁斗「す、すいません」

立花、魁斗を睨む。

魁斗「やっぱ誕生日プレゼントに低反発枕はねぇか……」

千明「最初聞いた時は殴りかけたわ。誕生日

とかクリスマスには指輪とかアクセサリーとか彼氏にしか渡せない物が欲しいの」

魁斗「ホント、千明に相談して正解だった」

千明「これとかいいんじゃない？」

と、120万円のネックレスを指す。

魁斗「自腹だっつってんだろ」

千明、笑う。

×　×　×

接客エリアにいる魁斗、千明、店員。

10万円の値札が付いたペアリングがある。

千明「可愛いでしょ？」

魁斗「いいね。じゃあこれください」

店員「サイズはどうされますか？」

魁斗「あ、忘れてた」

店員「女性の平均は8〜11号ですが」

魁斗、千明の手を見る。

魁斗「華純と千明ってほぼ同じ体型だよな」

千明「ん？」

魁斗「一回はめてみてくれよ」

千明「……え」

魁斗「千明の指で試せば分かるだろ」

千明「そ、それは……」

千明、ペアリングを凝視する。

千明「これ……華純にあげるんだよね……」

魁斗「ん？そりゃそうだろ」

千明「……」

魁斗「早くしろよ」

魁斗、強引に指輪を千明の左薬指にはめる。

千明「……ッ！」

魁斗「ピッタリだな」

指輪を見つめる千明。

魁斗、千明から指輪を外す。

千明「あ……」

魁斗「この大きさでお願いします」

店員「承知いたしました」

バックヤードへ行く店員。

魁斗「どうかしたか？」

千明「……別に」

魁斗、首を傾げる。

○遊行施設・表（夜）

遊行施設から出て来る魁斗と千明。

千明「楽しかった～！」

魁斗「今日はマジでありがとな」

魁斗、ジュエリー店の袋を見せる。

千明「じゃあね」

立ち去る千明。

○歩道橋（夜）

通行人の女2人がいる。

魁斗、袋からリングケースを出し、微笑みながら眺める。

女1「（歩道を見て）ねえ、アレ見てよ。すっごい年の差カップルだね」

女2「いや、あれ絶対パパ活でしょ」

女1「マジ？キモ～い」

魁斗「……？」

魁斗、歩道を見る。

高級車の横に立花と女がいる。
女は魁斗に背を向けている。
魁斗「あのオッサン、さっきの店で……」
立花、女にネックレスをかける。
魁斗「げ、120万」
立花と女、キスする。
立花が車のドアを開ける。
女が振り返り、魁斗に顔が見える。
華純だ。
魁斗「……え」
立花「じゃあまたね、華純」
立花、乗車して発進。
硬直する魁斗の手からリングケースが滑り落ちる。
飛び出るペアリング。
華純のネックレスが街灯の光に反射して輝いている。

○走る電車内（夜）
千明、左薬指を眺める。

○歩道橋（夜）

雨の中、立ち尽くす魁斗。

通行人が怪訝な顔で魁斗を見る。

ペアリングは通行人に踏まれている。

○タイトル「天国への第一歩」

○聖教医科大学・教室・内

英語の講義中。

千明、隣の空席を見る。

講師「東条は休みか？」

魁斗、入ってくる。

魁斗「すいませ〜ん！遅れちゃいました」

講師「東条！医学科は一単位でも落としたら留年なんだぞ」

魁斗「気を付けま〜す！」

席に着く魁斗。

千明「遅刻なんて珍しいね」

魁斗「……」

魁斗、教科書を開く。

○同・大講義室・内（夕）

大講義室から大勢の生徒が出て来る。

魁斗と千明もいる。

千明「ねえ、今から遊びに行かない？」

魁斗「……いや、今日は……」

千明「華純か？華純だよね？ラブラブだもんな～」

魁斗「……」

華純が走ってくる。

華純「魁斗くーん！」

魁斗「……ッ！」

千明「噂をすれば」

華純「今から時間ある？お洒落なカフェ見つけたんだけど良かったら行こうよ」

魁斗「ああ……」

華純「魁斗君？」

魁斗「悪い、先約が……そう、千明と」

千明「え？」

魁斗「別にいいだろ？」

華純「え、あ……うん。なら仕方ないね」

立ち去る魁斗。

○同・正門（夕）

千明、魁斗に詰め寄る。

千明「どういうこと？」

魁斗「……」

千明「ねえ」

と、魁斗の顔を覗き込む。

千明「魁斗……？」

魁斗、歯を食いしばっている。

○カフェ・内（夕）

珈琲を飲む魁斗と千明。

千明「……華純が……パパ活？」

魁斗「援交だ」

千明「……」

魁斗「クソがッ！」

千明「……ねえ……」

魁斗「あ？」

千明「魁斗って華純の家行ったことある？」

魁斗「家？ないけど……」

千明「私、高校の時1回だけあるんだけど、見たことないくらいボロくてさ」

魁斗「……何の話だ」

千明「修学旅行も私たちが華純の分の旅費を出して行ったの」

魁斗「……まさか……学費？」

千明「華純がブランド品のためにやると思う？」

魁斗「だからって……だからってそんな……裏切りは裏切りだ！」

千明「……」

魁斗「千明？」

千明「お願い……華純と別れないで……！」

魁斗「え……？」

千明「華純すっごく楽しそうなの。毎日毎日会う度に魁斗のここがいいとか、あのデートは楽しかったとか……あんな幸せそうな華純見たことなくて」

魁斗「……」

千明「魁斗もそうでしょ？華純といたら楽しいでしょ！？」

魁斗「それとこれは……」

千明「悩みなら私がいつでも聞いてあげる！だから、ね？」

千明、魁斗の手を両手で握る。

○東条邸・魁斗の部屋・内（夜）

魁斗、ペアリングを見つめる。

魁斗「……華純……俺はお前を……」

ペアリングを握りしめる。

○高級レストラン・内（夜）

食事中の華純と立花。

立花「何か悩みでも？」

華純「え……？」

立花「勉強？友達？」

華純「……」

立花「それとも、彼氏？」

華純「……ち、違います」

立花「冗談だよ。もし彼氏がいたら即契約切って今までの金も全部返金だからな」

華純「え……」

立花「なんちゃって！これも冗談」

華純、固唾を飲む。

〇東条邸・魁斗の部屋・内（朝）

魁斗、スマホのアラームを止める。

スマホの待受画面は、お揃いのカチューシャを付けた魁斗と華純。

魁斗「……よし！」

魁斗、飛び起きる。

〇聖教医科大学・大講義室・内

経済学の講義中。

魁斗が入ってくる。

千明、魁斗に手を振る。

魁斗、千明の隣に笑顔で座る。

千明「もう大丈夫そうね」

魁斗「千明のおかげだ。サンキューな」

千明「いいってことよ。で、なんで遅れたの？」
魁斗「誕生日デートの準備をな」
教授「おい！そこの２人静かに」
魁斗「す、すみません」
教授「（魁斗に）君、失業率と物価の間にある関係をなんというか答えろ」
魁斗「え？あ～……」
千明「トレードオフです」
教授「よろしい」
魁斗、千明に頭を下げる。

○高級レストラン・外観（夜）

○同・内（夜）

フォーマルな格好の魁斗と華純、そわそわと食事中。
他の客とは明らかに年齢が違う。
華純「す、凄く美味しいね。予約してくれてありがとう。でも高そう……」
魁斗「悪い……どう見ても１９のカップルが

来るとこじゃねぇな」

華純「そ、そんなことないよ！ほら、あそこに小学生くらいの子もいるし」

華純の視線の先には上品な家族。

魁斗の顔が引き攣る。

魁斗M「マズい……ちょっと早いが……」

魁斗、店員に目で合図を送る。

頷く店員。

華純「ん？」

店員が豪華なケーキを運んで来る。

店員「どうぞ」

と、華純の前に置く。

和と洋を融合させたような、美しい光沢感を放つケーキ。

皿には『Happy Birthday Kasumi』とある。

華純「うわぁ……！」

魁斗、ポケットからリングケースを出す。

魁斗「華純」

華純「ん？」

魁斗、ペアリングを差し出す。

華純「……ッ！」

魁斗「華純、誕生日おめでとう」

華純「魁斗君……！」

目に涙を浮かべる華純。

華純「付けて……」

華純、左手を出す。

明らかに薬指を突き出している。

魁斗「……」

魁斗、華純の左薬指を凝視。

×　×　×

フラッシュ。

立花とキスしている華純。

×　×　×

華純「……ダメ、かな」

魁斗「い、いや……ほら、左薬指ってアレだろ？そこはそれまでのお楽しみってことでさ……だから……」

華純「……いいよ」

魁斗「え……？」

華純「……魁斗君なら、いいよ」

魁斗「……ッ！」

魁斗の目を見つめる華純。

魁斗「な、なに言ってんだよ。俺たちまだ1ヶ月じゃねぇか。な？」

華純「……そっか……そうだね」

魁斗、華純の右薬指に指輪をはめる。

指輪を眺める華純。

華純「ピッタリだね」

魁斗「ああ。千明に協力してもらったんだ」

華純「え？」

魁斗「ちょうど華純と同じくらいでさ」

華純「……そう。ありがとう、毎日付けるね、お風呂でもベッドでも」

華純の右薬指で輝く指輪。

〇マンション・千明の部屋・風呂（夜）

湯船に浸かっている千明。

千明「魁斗……」

左薬指をさする。

○道（夜）

エコバッグを持って歩く香織。

香織「夜勤なくなってラッキ―」

香織、ふと前を見ると、魁斗と華純に気付く。

香織「！」

電柱に隠れて覗き見る香織。

華純「今日は本当にありがとう」

魁斗「俺も忘れられない日になったよ」

華純「魁斗君……」

香織、華純が踵を上げた瞬間、目を逸らす。

華純「……今日、お母さんいないの」

魁斗「え……」

華純「……来る？」

魁斗「……」

華純「魁斗君ならいいよ。でもすっごくボロいから引かないでね」

魁斗「……引かないよ」

香織のエコバッグから野菜が落ちる。

魁斗「！？誰だ！」

華純、振り返ると香織に気付く。

華純「お、お母さん！？」

魁斗「え！？」

香織「ど、どうも～」

香織、電柱の影から出る。

○アパート・表（夜）

魁斗、華純、香織がいる。

香織「じゃーん！ここが私たちのお家です」

余りのボロさに絶句する魁斗。

華純「やっぱり引いてる……」

魁斗「え、あ、いや……」

香織「皆似たようなもんよね～」

華純「何言ってるの！魁斗君のお家はすっごくお金持ちなの！あの東条美容外科なんだよ！？」

香織「げ！マジ！？じゃあ鉄筋なんだ！鉄筋

アパート」

魁斗「アハハ……」

華純「バ、バカ！」

華純、香織をポカポカ叩く。

〇同・姫宮家・玄関兼リビング（夜）

魁斗、華純、香織、入る。

魁斗「お邪魔します」

見渡す魁斗。

華純「あ……！」

華純、机にある穴開き靴下を隠す。

香織「華純、その服もらったの？」

華純「ううん、貸してもらってて」

魁斗「あげるよ」

華純「ダ、ダメだよ！こんな高いの」

香織「ありがと〜お礼に何か作ったげる」

魁斗「そんな。お構いなく」

華純「いや、だから……」

香織「バナナジュース飲む？バナナと牛乳と氷の3つで作るんだけど」

魁斗「大好物です！脇役の氷の量が結構大事なんですよね」

香織「お！分かってるね」

香織、キッチンに立つ。

華純「ホントにもう……ごめんね？」

魁斗「良いお母さんだな」

華純「すぐ調子乗るんだもん」

魁斗「嫌いなのか？」

華純「ううん、大好き。いつも私のやることを応援してくれて」

魁斗「……」

華純「だから、絶対お医者さんになって楽させてあげたいの」

魁斗「華純……」

華純「ちょっと動機が不純かな……」

魁斗「ンなことないよ。俺にも手伝えることあったら言ってくれ。ほら、うち金だけはやたらあるしさ」

魁斗、笑う。

華純「……なにそれ」

魁斗「……え？」

華純「私、魁斗君のお家がお金持ちだから付き合ったんじゃないよ？魁斗君が……魁斗君自身が好きだから……！」

魁斗「あ、ああ……悪い。俺も純粋に華純のことが好きなだけだ」

華純「魁斗君……」

魁斗と華純の視線が絡み合う。

香織「ジュースと華純、どっち食べる？」

魁斗・華純「……ッ！」

魁斗と華純、咄嗟に離れる。

香織「あ！急に2時間くらい外出する用事できたかも」

魁斗「す、すいません……」

華純「へ、へへ変なこと言わないでっ！もう！私も手伝う！」

キッチンへ行く華純。

魁斗「ハハハ……」

華純のスマホのバイブが鳴る。

魁斗「ん？」

魁斗、華純のバッグからスマホを取り出す。

魁斗「華純、でん……」

ふと、着信名が目に入る。

『ヘブンズロード店長』。

魁斗「……あ？」

着信が切れる。

魁斗「……ヘブン……ズ……？」

魁斗、華純のバッグを漁る。

パツパツな名刺入れを見つける。

一瞬躊躇するも、開ける。

魁斗「……ッ！」

中には大量の黒と金の名刺があり、全てに『蒼葉ナナ』『ヘブンズロード』と印字されている。

× × ×

香織「完成！」

華純「魁斗君、どれくらい飲……ん？」

魁斗、玄関で靴を履いている。

華純「あれ？どうしたの？」

魁斗「……母さんが、倒れたって……」

華純「え！？」

香織「それは早く帰らないと」

魁斗「すいません……」

魁斗、勢い良く飛び出す。

○道（夜）

疾走する過呼吸の魁斗。

角を曲がった所で止まり、肩で呼吸する。

魁斗「クッ……！」

拳を壁に叩きつける。

膝から崩れ落ち、嗚咽する。

右手には握り潰された名刺。

○聖教医科大学・外観（夕）

○同・廊下（夕）

バッグを漁りながら歩く千明。

千明「教科書、教室に忘れたな」

○同・教室・内（夕）

千明、入ってくる。

だらんと椅子に座る虚ろな目の魁斗。

千明「あれ？魁斗？」

魁斗「……」

千明「来てたんだ。講義出なよ」

魁斗「ハハ……ハハハ……アハハハハッ！」

千明「……？」

魁斗「なあ……千明……お前、風俗行ったことあるか？」

千明「……は？」

魁斗「ないよな……俺もないんだ……ハハハ！今度一緒に行こうぜ」

千明「何言ってんの？」

千明、ふと落ちている魁斗のスマホに気付き、拾う。

千明「（画面を見て）な、何見てんのよ！」

魁斗「アハハハ！俺は蒼葉ナナを指名するんだ！」

千明「蒼葉？（画面を見て）……ッ！？」

魁斗「その子、俺専用にするんだ！24時間一緒だ……いいだろ！？1時間3万で72万……1ヶ月で2160万……余裕で払える！これでナナは俺のものだ！誰にも渡さない！」

千明「……魁斗……」

魁斗「アハハハハッ！」

千明「魁斗ッ！」

千明、魁斗を抱きしめる。

魁斗「……」

千明「……」

魁斗「（うわ言で）華純……」

千明、魁斗の唇を奪う。

魁斗「……ッ！」

千明「ひとりで抱え込まないで？言ったでしょ、悩みなら私がいつでも聞いてあげるって……受け止めてあげるから……」

魁斗「千明……」

千明「だから、華純の前では優しい魁斗でいてあげて……今、魁斗がいなくなったら、

華純は……」

魁斗の太股に手を伸ばす千明。

千明「嫌な事があったら、私に吐き出してくれていいから……」

魁斗「……ッ！千明……！」

魁斗、千明を机の上に押し倒す。

千明「あ……」

魁斗のスマホが落ちる。

待受画面の華純の顔は、落下の衝撃で出来たヒビで見えない。

○マンション・外観（朝）

高級タワーマンション。

○同・千明の部屋・寝室（朝）

ベッドで寝ている魁斗と千明。

魁斗、目を覚ます。

魁斗「……」

ゆっくり起きて着替え始める魁斗。

千明、衣擦れ音で起きる。

千明「……おはよう」

魁斗「あ、ああ……」

千明「……」

魁斗「昨日は、その……」

千明「治療だから」

魁斗「え……？」

千明「千明メンタルクリニック。何かあったらいつでも来ていいよ」

千明、メモ用紙に何かを書き、魁斗に渡す。

魁斗「……」

メモ用紙には『カイト専用診察券』とある。

千明「ホントは2ヶ月待ちだけど、魁斗ならいつでも診てあげる」

魁斗「……」

千明「薬も処方してあげる」

魁斗「千明……」

千明「またのご来院お待ちしております」

魁斗「俺は……その……」

千明「先行ってていいよ」
魁斗「……いや……待つよ」
千明「優しくする相手が違うでしょ？」
魁斗「……」
千明「ほら、笑って！」
千明、両手の人差し指で自分の口角を上げて見せる。
ぎこちない笑みで出て行く魁斗。
千明「……」
千明、毛布に顔をうずめる。

○聖教医科大学・通学路（朝）
魁斗、財布にあるメモ用紙を見ながら歩いている。
華純が走ってくる。
華純「魁斗君！」
魁斗「ッ！」
咄嗟に財布を隠す魁斗。
華純「おはよう」
魁斗「（笑顔で）あ、うん」

華純「お母さん大丈夫だった？」

魁斗「あ、ああ……軽い貧血だよ」

華純「そう。大事じゃなくて良かった」

華純、ふと魁斗の服の皺に気付く。

華純「すごい皺。何したの？」

皺を伸ばす華純。

魁斗「……」

華純の手が止まる。

華純「ねえ、香水付けてる？」

魁斗「え……」

華純「なんだかいつもと違う」

魁斗「き、気分転換にね」

華純「あんまり好きじゃないかも」

魁斗「……」

華純「魁斗君？」

魁斗「ごめん……もう二度と付けないよ……

二度と……」

華純「うん、ありがと！それより今日空いてる？行きたいところあるの」

華純、魁斗と手を繋ぐ。

○水族館・外観（夜）

○同・屋内・水槽エリア（夜）

手を繋いでいる魁斗と華純。

華純「私初めてなの。遠足とかも行けなくて」

×　×　×

フラッシュ。

抱き合う魁斗と千明。

千明「華純の前では笑顔でいてあげて」

×　×　×

魁斗、拳を握り、笑顔を作る。

魁斗「俺は小学校の遠足以来だな」

水槽に張り付く華純。

華純「可愛い～いっぱいいるね」

魁斗「向こうに珍しいの色々いるぜ？」

華純「うん！」

華純、魁斗の腕に抱きつく。

○同・同・トンネル型水槽エリア（夜）

壁と天井一面に魚が泳いでいる。

華純「綺麗……！こんなのあるんだ！ほらほら上にもいるよ」

魁斗「こんなの昔あったかな。建築技術進歩してんなぁ」

華純「建築技術って……なんかヤだ」

魁斗「ごめんごめん。そうだな、海中を散歩してるみたいで幻想的だ」

華純「う～ん、ギリギリ不合格」

魁斗「厳し～」

魁斗と華純、笑う。

○同・同・巨大水槽エリア（夜）

魁斗と華純、水槽の中のスタッフを見ている。

魁斗「あの人何やってんだ？」

華純「清掃作業かな」

魁斗、水槽の貼紙を見る。

『アクアスタッフを展示しています』との記載。

魁斗「この人も展示なんだとよ」

華純「ウソぉ」

華純、スタッフに手を振ると、振り返される。

華純「ホントだ！」

魁斗「色々考えてんなぁ」

華純、スタッフに手を振って微笑んでいる。

魁斗「何か見たい動物とかいないのか？」

華純「いるいる！ペンギンさん見たい！」

魁斗「よし、じゃあ行こう！」

魁斗、華純を引っ張る。

○同・屋外（夜）

ペンギンエリア。

数羽のペンギンと数人の飼育員がいる。

華純「可愛い～！」

魁斗「なんで外？」

飼育員「こちらのペンギンはケープペンギンという種類で、南アフリカ・ケープタウンの砂浜や草原に生息しています。そのケー

プペンギンが暮らしている環境をイメージしているため、草原のような展示になっています」

魁斗「陸地のペンギンねぇ」

華純「ペンギンさんって鳥類なんだよね」

魁斗「飛べないのにな」

華純「他の鳥さんからバカにされてないかな……」

魁斗「……されてないよ。むしろ人気だから嫉妬されてるだろ」

華純「だといいんだけど……」

魁斗「それより皇帝ペンギンいないのか？名前がやたらカッコ良いアイツ」

華純のスマホが鳴る。

魁斗「……ッ！」

魁斗から笑顔が消える。

華純「もお～せっかく癒されてたのに（出て）はい、姫宮です」

店長の声「もしもし、俺だけど」

華純「……ッ！」

華純、魁斗の腕を離す。

魁斗「……」

華純「（笑顔で）あ！友美？」

店長の声「は？何言ってんだ？ていうか、急なんだけどよ、今から出勤してくれ。病欠が出てよ」

華純、魁斗に背を向ける。

こわばる華純の顔。

魁斗「……」

華純「（明るく）え？今からテスト勉強？ごめん！今外出中なの」

店長の声「おいお前、何言って……ああ、なるほどな。今彼氏といるんだろ？だから！そりゃ聞かれちゃマズイよな」

華純「だから……」

店長の声「ナメてんのか？」

華純「……ッ！で、でも、ちょっと今は……

他の人じゃ……ダメですか？」

魁斗「……」

店長の声「そっかそっか、そうだよな。医学

部行って彼氏と遊んで大変だよな。じゃあ出勤回数減らしてやるよ」

華純「え……」

店長の声「無理は良くない」

華純「……わ、分かった！仕方ないな～今日だけだよ？」

店長「最初からそう言え！クソが」

通話が切れる。

魁斗「……華純」

華純、笑顔で魁斗に向き直る。

華純「友達から！今から試験勉強付き合ってってさ！ホント困るよね、デート中なのに。でね？今魁斗君とデート中だから違う子に頼んでよって言ったの、でもねでもね！どうしても私じゃなきゃダメだって言うから」

華純の目が泳いでいる。

魁斗「……」

華純「どうしてもね？どうしても私に教えて欲しいって言うの。ほら、私結構勉強でき

ちゃうんだ。だからね？医学部って１つでも単位落としちゃうと留年するでしょ？友達がそうなったら嫌なの。だからね！？だからね！？うん、仕方ないけど、残念だけど、魁斗君ともっといたいけど、ごめん。今から友達のところ行くね？ごめんね？」

魁斗「……ああ、分かった」

華純「ごめんね！」

魁斗「何謝ってんだよ」

華純「……」

魁斗「行ってやれよ。留年はキツイぞ」

華純「……ごめん、なさい」

魁斗「だから……何謝ってんだよ」

華純「ごめんね……！」

涙をこらえながら走り去る華純。

魁斗「……」

客と会話している飼育員。

別の飼育員、魁斗に、

飼育員「お兄さんはペンギン好きですか？」

魁斗「……」

爽やかな笑顔の飼育員。

飼育員「お兄さん？」

魁斗「……俺は……俺は……」

魁斗、その場から逃げ出す。

驚く飼育員と他の客。

○同・屋内（夜）

無我夢中で走る魁斗。

飼育員の声「ペンギンは元々他の鳥と同じように空を飛んでいました」

何度も客にぶつかる。

飼育員の声「しかし、飛べなくなった後は、より効率よくエサを捕ったり敵から逃れたりできるよう進化したのです」

過呼吸になる。

飼育員の声「可愛いだけじゃなくとっても強いのです」

魁斗、外へ出る。

○同・表（夜）

魁斗、水族館から出る。
立ち止まって肩で呼吸する。
スマホを取り出す。
魁斗「……」
しばらく悩んだ後、電話をかける。
千明の声「（電話）は～い、千明です」
魁斗「……」
千明の声「もしもし？魁斗？」
魁斗、電話を切る。
魁斗「華純……俺は……！」
天を仰ぐ魁斗。

○ヘブンズロード・外観（夜）

○同・楽屋・内（夜）
喫煙中のマオ（２９）。
華純、指輪をリングケースにしまう。
マオ「アンタがナナ？」
華純「は、はい……」
マオ「結婚してんの？」

華純「え？」
マオ「指輪」
華純「あ、いえ……その……彼氏から……」
マオ「へぇ。ホスト？」
華純「ち、違います……」
マオ「あっそ。じゃあ何でこれやってんの？
シングルマザー？」
華純「だ、大学が医学部で……」
マオ「（鼻で笑って）まさか学費？じゃあ男って同級生？」
華純、小さく頷く。
マオ「うわ～、ソイツこれやってること知ってんの？」
華純「……」
マオ「言ってないんだ。カワイソ～、絶対気付いてるよ」
華純「え……」
マオ「だって医学部の男でしょ？頭良さそうじゃん。だから気付いてんじゃねぇかなって」

華純「そ、そんな訳ありません！さっきまで楽しくデートしてたんです！」

マオ「そりゃアンタはね」

華純「……」

店長が入ってくる。

店長「早くしろ」

華純「す、すみません」

出ていく華純。

マオ、華純のバッグを見る。

○同・待合室・内（夜）

縦にも横にもデカイ男がいる。

引き攣った笑みを浮かべる華純。

男「よろしく」

華純「……よ、よろしくお願いします」

華純、頭を下げる。

○東条邸・表（夜）

虚ろな目をした魁斗が歩いている。

家の前に千明がいる。

千明「よッ！」

魁斗「……」

千明、魁斗に手を振る。

○公園（夜）

ブランコにうなだれるように座っている魁斗。

千明は魁斗の横のブランコで立ち漕ぎしている。

千明「2回目のご来院ありがとうございます。診察券お持ちですか？」

魁斗「……」

前後するブランコのギコギコという音が響く。

千明、ブランコから降りて魁斗のポケットから財布を出し、メモ用紙を取り出す。

千明「はい、オッケー」

魁斗「……今日……華純の新しい一面が……見れたんだ……」

千明、ブランコに乗る。

魁斗「アイツ、嘘付くと口数ヤバくなるんだ……初めて見たぜ……」

千明「……」

魁斗「嘘以外の何ものでもない顔してんだ……目も泳ぎまくってるし、一瞬水族館と掛けたギャグかと思ったくらいだ……」

千明「……」

魁斗「ペンギンが好きだってのも今日初めて知った……そしたら、なぜか陸のペンギンしかいねえの……なんだアレ。でも可愛い可愛いって言ってたよ……大丈夫かアイツ。バイト先で絶対浮いてるよ」

千明「……」

魁斗「あの仕事で嘘付けないなんて致命的だろ？俺ならヤだね、あんな嘘丸出しの女……」

鼻をする魁斗。

千明、ブランコから降りる。

魁斗「……医者になるって……なってや

ろうって……皆の命助けてやろうって……お母さんを楽させてやろうって……そう言ってんのに、なんで……なんで、こんな……！なんで華純なんだ……！」

魁斗の足元が濡れる。

千明、魁斗を抱きしめる。

千明「なんでだろうね……」

魁斗「……」

千明「理由なんて分かんない……私にはただ……痛みを紛らわしてあげることくらいしか……」

街灯の光で出来た魁斗と千明の影が重なる。

○ヘブンズロード・部屋・内（夜）

半裸の男が着替えている。

服を着た華純、固定電話を取る。

華純「（電話）終わりました」

華純、電話を切る。

男「ナナちゃんは何でこんな仕事してんの？」

華純「……え？」

男「若い内はいいけど、ずっとこんなことやってたら社会じゃ通用しないよ？」

華純「……」

男「まあいいけどさ。困った事あったらいつでも相談してよ」

男、華純にキスする。

男「じゃあね」

出て行く男。

華純「……」

華純、吐き気がこみ上げ、口を抑えて洗面所に駆け寄る。

華純「おえ……おえッ！」

何度もえずく華純。

そのまま崩れる様に床に座り込む。

華純「魁斗君……魁斗君……」

過呼吸になる。

○公園（夜）

千明の舌先が魁斗の唇をこじ開ける。

魁斗「……ッ！」

魁斗、千明を振り払う。

千明「キャッ……！」

魁斗「ヤメろ！紛らわす……？違う……俺は……！」

フラフラと立ち去る魁斗。

魁斗「華純……」

千明、落ちている水族館の入場チケットを拾う。

千明「大丈夫だよ」

振り返る魁斗。

魁斗「……」

千明「言ったでしょ？治療だって」

魁斗「治療……」

千明「そう……魁斗が笑顔でいられるように……華純の前で格好良い魁斗でいられるようにしてるだけ……」

魁斗「……」

千明「魁斗、華純のこと好き？」

魁斗「え……？」

千明「愛してる？」

魁斗「……ああ」

千明「心の底から？」

魁斗「……」

千明「同情じゃない？」

魁斗「なに……？」

千明「ダメだよ……華純、今も頑張ってるのに魁斗がそんなのでいいの？」

魁斗「お前……」

千明「今頃何人もの男に抱かれてるんだよ？魁斗とのデート抜けてまで、頑張って他の男と寝てるんだよ？」

魁斗「ヤメろ……」

千明「訳分かんないオッサンが華純の首に跡が残るくらいキスして、上半身を弄んで……」

魁斗「ヤメろ……！」

千明「そしてまた次の男が華純と口づけして、舌を入れて……華純の上半身をまさぐって、その手で……」

魁斗「ヤメろォ！」

魁斗、膝から崩れ落ちる。

魁斗「ヤメて、くれ……」

千明、水族館のチケットをビリビリに破りながら、

千明「私も華純のこと好きだから……だから、魁斗には元気でいて欲しいの……華純のために……」

魁斗「華純のため……？」

千明「そう。そのための治療」

魁斗の瞳に映る千明が徐々に大きくなる。

○ヘブンズロード・楽屋・内（夜）

マオ、華純の指輪を手に取って見ている。

華純、入ってくる。

マオ「アンタの彼氏、結構いいセンスしてんのね」

華純「……？」

華純、マオの指にはめられた指輪に
気付く。
華純「……ッ！」
マオ「これ売らないわけ？学費の足しくら
いにはなるよ」
華純「か、返してよッ！」
華純、マオに飛びつく。
回避するマオ。
マオ「アンタ評判悪いよ。愛想がない上に、
下手だって」
マオを睨む華純。
マオ「辞めて欲しいんだよね。アンタだけな
らまだしも、店の評判まで下がると回りま
わって私たちにも迷惑だし」
華純、床に転がる瓶を見つける。
マオ、華純に背を向けて、
マオ「まあ、このままだと辞めさせられるの
も時間の問だ……」
マオが言い終わる前に、バリンッ！と
ガラスの割れる音が響く。

マオ「！？」

マオ、振り返る。

割れた瓶を持つ華純。

華純の目の焦点が合っていない

華純「触らないで……」

マオ「（鼻で笑い）人を刺す勇気なんてないくせに」

華純「刺す？刺すのはあなたじゃない……」

マオ「……？」

華純、割れた瓶を自分の首に突き立てる。

マオ「……ッ！」

華純「魁斗君を奪われるくらいなら……」

割れた瓶が華純の首に触れ、血が垂れる。

マオ「クッ……！」

マオ、指輪を投げ捨てる。

華純、物をなぎ倒しながら一直線に指輪に駆け寄る。

マオ「死ぬなら辞めてから死ね」

指輪を見つめる華純の不気味な笑み。

マオ「こんな奴が、医者に……？」

マオ、後ずさる。

○聖教医科大学・フットサルコート

大勢の部員がフットサルをしている。

○同・フットサルコート外

北澤、ボールで壁当てしている。

その横で休憩中の南野、西川。

西川「それマジ？」

北澤「ホームページ見ろよ。てか知らんかったんかよ」

西川「最初から言っといてやれよ」

北澤「アイツ落ち込んでるやろな。男のくせに女々しいから」

南野「時代ガン無視発言するな」

西川「北澤、お前まさか指名したんじゃ……」

北澤「流石にダチの女取る趣味ないわ」

南野「友達じゃなかったらいいのか」

北澤「揚げ足取んな。しょうもないネット民か」

西川「意味重複してんぞ」

部員の1人が駆け寄ってくる。

部員「おい1年！いつまで休憩してんだ」

北澤「さーせん！」

北澤、南野、西川、コートへ走る。

○道（夜）

エコバッグを持った香織、スーパーから出て来る。

香織「今日はカレーだよ～」

香織、鼻歌を歌っていると、コンビニの前のガードパイプに腰掛ける魁斗に気付く。

香織「お！魁斗くーん」

魁斗「……？（香織を見て）ッ！」

香織、魁斗の下へ走る。

千明、コンビニから出て来る。

千明「お待たせ」

レジ袋を持って、魁斗の腕に抱きつく千明。

香織「……え」

絶句する魁斗。

千明「ん？どうし……（香織に気付き）ッ！」

香織「千明、ちゃん……？」

千明、咄嗟に魁斗から離れる。

○ファミレス・内（夜）

珈琲を飲む香織。

香織と目を合わせない魁斗と千明。

香織「千明ちゃん……久しぶりね」

千明「……」

香織「授業はついていけてる？華純は家でうんうん唸りながら勉強していて大変そうなんだけど……」

俯く千明。

香織「魁斗君も勉強、」

魁斗「（遮って）申し訳ございません」

魁斗、深々と頭を下げる。

魁斗「千明は悪くありません。全ての非は僕にあります」

香織「魁斗君……」

頭をテーブルに擦り付ける魁斗。

香織「謝る必要なんてないのよ……悪いのは私なんだから……」

魁斗「え……？」

香織、財布から『蒼葉ナナ』の名刺を出し、テーブルに置く。

魁斗・千明「……ッ！？」

香織「やっぱり知ってたんだ……そうよね、2人とも賢いものね」

魁斗「……」

香織「謝罪なんて……むしろ感謝しているわ。華純とずっと友達で……恋人でいてくれて……」

魁斗「知っていたん……ですか……」

香織「たまたまね……でも、華純を止められなかった……いや、止めなかった」

千明「……」

香織「私の給料じゃ奨学金があっても……だから見て見ぬ振りをした……華純が苦しんでいるのに……母親なのに！」

魁斗「……ッ！」

香織「……華純のおかげでちょっとだけ生活が良くなった……たまに華純と朝ごはんを食べられるようになって……それが嬉しくて、失くしたくなくて……笑っちゃうでしょ？」

魁斗、香織から目を逸らす。

香織「魁斗君……特に恋人のあなたには感謝してるわ……本来こんな家と関わる必要のない環境なのに……私のせいで……」

魁斗「ヤメてください！僕は……華純を……華純を裏切ったんです！」

魁斗、１万円札を置き、逃げ出す。

〇同・表（夜）

勢い良く出て来る魁斗。

魁斗「誰か……！」

頭を抱える。

魁斗「俺を責めてくれ……怒ってくれ……！
殴ってくれ！否定してくれッ！じゃないと、俺は……！」

走り出す魁斗。

○高級レストラン・内（夜）

食事中の立花と華純。

華純の右薬指に指輪はなく、首元にネックレスがある。

立花「ねえ華純」

華純「はい」

立花「僕、華純とこうして一緒に食事できて幸せだよ」

華純「わ、私も……です」

立花「嬉しいね。でももう少し自然に言う練習した方がいいよ」

華純「……」

立花「まあ、華純のそういう正直な所が好きなんだけどね。だから、僕は今でも満足な

んだけど、華純はどうかな？」

華純「え……？」

立花「今のお小遣いで足りてる？その辺の女ならアレだけど、華純は学費がね？夜やってても大変でしょ」

華純「……ッ！？」

立花「知ってるよ。どこで働いてるのかも。でもそれはいいんだ。彼氏でなければ」

華純「……」

立花「そこで提案なんだけどさ、僕との契約プランを更に上位にしないかい？」

華純「上位……？」

立花「なぁに、同じことだよ。ただ相手をする客が1人増えるだけ。いや、それより美味しいよ」

華純「美味しいって……」

立花「もししてくれるなら……今の1.5倍、いや、倍だそう」

華純「ば、倍……！？」

立花「助かるでしょ？上手くやり繰りすれば

お母さんに何かプレゼントをあげられるかもしれない」

華純「……」

立花「きっと喜ぶよ」

立花、華純の手を握る。

○東条家・リビング（夜）

次郎、冷蔵庫を漁っている。

その様子を見る智子。

智子「朝食の残り食べて下さいよ」

次郎、朝食の残りを見る。

次郎「そういう気分じゃないな」

と、チーズとワインを持ってソファへ戻る。

智子「もう、仕方ないですね」

智子、朝食の残りを捨てる。

魁斗、勢い良く入ってくる。

智子「ん……？」

タンスの中を乱暴に漁る魁斗。

次郎「何だ？」

智子「ど、どうしたの！？」

魁斗、『東条魁斗』名義の通帳を見つける。

次郎「何やってるんだ！」

次郎、魁斗に掴みかかる。

魁斗「どけッ！」

と、次郎を振り払う。

通帳残高の５千万円を見て、不敵に微笑む魁斗。

魁斗「どうしようが俺の勝手だ」

次郎「フザけるなッ！それはお前の学費だ！」

智子「どうしたの！？魁斗！」

魁斗「学費なんざ要らない！医者になるべきは俺じゃないんだ！」

智子「どういうこと！？」

魁斗「俺、大学辞めるよ」

次郎・智子「……ッ！？」

魁斗「俺なんかが……俺なんかが医者になっちゃいけない！……父さんが医者だから……家が金持ちだから……だからなりた

いだけなんだ！」

唖然とする智子。

次郎「急にどうした！医者になりたくないのか？それとも跡を継ぎたくないのか？悩みなら聞くぞ！」

魁斗「華純なんだ……華純こそが……！」

智子「誰……？」

魁斗「浮いた金を……そう、これは寄付なんだ……慈善活動なんだ……」

次郎「何を言ってるんだ……？」

魁斗「どうせ不動産か政治家を買うだけだろ？ならいいじゃないか、慈善活動をすれば会社のイメージアップにも繋がる……そうだ、それがいい……それしかない……！」

唖然とする次郎と智子。

気が狂ったような笑い声をあげ、出て行く魁斗。

次郎「か、魁斗！」

次郎、魁斗に振り切られる。

○歓楽街（夜）

華純と立花が手を繋いでいる。

華純「……」

目の前は、ホテル街へ続く道。

○道1（夜）

魁斗、電話をかける。

魁斗「華純……！」

○道2（夜）

千明、周囲を見渡しながら走る。

千明「魁斗……！」

○ホテル街（夜）

ホテルの前に着く華純と立花。

華純、指輪を握りしめる。

立花、華純の手を引っ張る。

そこに魁斗が走ってくる。

魁斗「華純！」

華純「（振り返り）……ッ！？」

魁斗「もういいんだ……！もう！」
華純「な、なんで、ここに……！」
立花「誰だ？」
魁斗「華純……！」
立花「誰だお前！」
魁斗、華純の下へ駆け寄る。
立花、魁斗の腕を掴む。
魁斗「触んじゃねぇ！」
立花を振り払う魁斗。
立花「ああ！？華純！誰だこの男！」
言葉に詰まる華純。
立花「まさか彼氏じゃねぇだろうな！？」
華純「……！」
魁斗「そうだよ！俺が……俺だけが華純の彼氏だ！」
立花「……ッ！」
華純「こ、これは……」
立花「華純ィ！」
魁斗「華純、もういいんだ！学費は俺が、」
華純「（遮って）……違う……」

魁斗「……え」

華純「違う……この人は彼氏なんかじゃ……

彼氏なんかじゃない……」

魁斗「な……！」

立花「じゃあなんなんだ！」

華純、間を空け、

華純「……ス……ストーカー」

魁斗「……ッ！？」

華純「ストーカー……！この人、ストーカーなの！」

魁斗の表情が凍り付く。

×　×　×

ホテル街に入る千明。

周囲を見渡すと、遠くにいる魁斗、華純、立花に気付く。

×　×　×

立花、魁斗の胸倉を掴む。

立花「ストーカーだと！？」

魁斗「な……なに言って……」

華純、魁斗から目を逸らす。

魁斗「……ッ！」

立花「テメェ！」

立花、魁斗の頭を掴み、膝蹴りを入れる。

魁斗「ぐあッ……！」

顔面を殴られ吹っ飛ぶ魁斗。

華純「……ッ！」

立花「死ねッ！」

立花、倒れる魁斗の腹を蹴る。

魁斗「カハッ……！」

悶絶する魁斗。

立花、再度蹴りを入れようとする。

華純「や、やめ……」

華純が立花を止めようとした瞬間、

千明「やめてぇ！！」

千明、全速力で来て魁斗を庇う。

華純「……ッ！？」

立花「まだいたのか！誰だお前！」

千明「……私は……この人の……」

華純「……千明？」

千明、魁斗にキスする。

華純「！？」

千明「……魁斗の彼女です！」

意識が朦朧とする魁斗。

華純「……ちあ……き……？」

立花「テメェの男かよ！ちゃんと教育しとけや！」

タクシーを捕まえる立花。

立花「行くぞ！」

立花、呆然とする華純を引っ張ってタクシーに乗せ、発進する。

千明「魁斗！しっかりして！」

魁斗「（うわ言で）華純……華純……」

千明、落ちている魁斗名義の通帳に気付く。

千明「クッ……！」

千明、魁斗に肩を貸す。

魁斗「華純……」

魁斗の頬を涙が伝う。

○マンション・千明の部屋・リビング（夜）

千明、魁斗を背負って帰宅。

ソファに魁斗を座らせる。

千明「服……汚いよ」

魁斗「……」

千明「ほら、早く脱いで」

魁斗「……」

千明「ねえッてば！」

魁斗「……帰ってくれ……」

千明「なに言ってるの？ここは私の、」

魁斗「帰れよ！」

魁斗、倒れ込む。

千明「魁斗……」

嗚咽する魁斗。

千明「もういいよ……なんで魁斗ばっかり……！魁斗が傷つかなきゃいけない理由なんて！もう十分頑張った……もう華純と別れても裏切ったなんて言わない！誰も責めないよ！」

魁斗「（涙を浮かべ）……」

千明「私が華純の代わりになる……嫌な事は全部忘れさせてあげるから……」

千明、自分の服のボタンを外す。

○繁華街（夜）

華純と立花、タクシーから降りる。

立花「今日は大変だったね」

華純「……」

立花「またアイツが現れたらすぐ言ってね。叩き潰してやるから」

華純「……」

立花「華純？」

華純「……え？」

立花「じゃあ、また明日」

立花、華純の肩を抱き、目を閉じて唇を突き出す。

華純「うッ……！」

華純、吐き気で口元を抑える。

立花「……？」

華純、立花を突き飛ばし、地面に膝を

つく。

華純「おええええ！」

と、嘔吐する華純。

立花「……ッ！華純！？」

華純、立花を無視し、震える手でスマホを取り出す。

華純「魁斗君……魁斗君……魁斗君……」

華純、電話を掛ける。

華純「……出て……出てよ……」

呆然とする立花。

○マンション・千明の部屋・寝室（夜）

暗闇。

軋むベッド。

千明の荒い吐息。

散乱している魁斗と千明の服や下着。

魁斗のスマホの着信音が鳴り響く。

○東京都・俯瞰（朝）

雲に覆われた灰色の空。

○マンション・千明の部屋・寝室（朝）

薄暗い部屋。

千明、目を醒ます。

テレビでYouTubeを見ている魁斗。

千明「……おはよう」

魁斗「……」

千明「……何見てるの？」

魁斗「……ガン患者……」

千明「……？」

魁斗「安心するぜ……」

千明「……え？」

魁斗「俺より下がいて」

千明「……ッ！」

魁斗「1千万回再生だとよ。他の動画もすげぇ回ってやがる……人の不幸ってのは最高だな……自分より不幸な奴がいる……俺なんか比にならないくらいドン底の奴がいる！皆そう感じたいから見てんだ！」

千明「な、何てこと言うの！？」

魁斗「好きで動画あげてんだから、こっちが

どう見ようと勝手だ」

千明「魁斗……」

魁斗「……そうだ、華純もこれやれよ」

千明「え……」

魁斗「学費のために身体を売る女！いそうでいないぜ！これで人気になればいいんだ！華純は儲かるし男は喜ぶし完璧だ！アハハハハ！」

千明「……何、言ってるの……？」

魁斗「……あ？」

千明「そんなの誰が……！」

魁斗「……お前もだろ？」

千明「え……？」

立ち上がる魁斗。

魁斗「お前も俺の不幸が楽しいんだろ！だから俺に構う！そうだろうが！」

千明「……魁斗……」

魁斗「消えろ……」

千明「……え……」

魁斗「消え失せろッ！」

絶句する千明。

魁斗「なら、俺が出て行く……」

出て行く魁斗。

○同・表（朝）

魁斗、フラフラと出て来る。

前から華純が来る。

魁斗「……」

華純、千明のマンションを見上げ、眉をひそめる。

華純「昨日は……その……」

魁斗「一限は……？」

華純「え？」

魁斗「行けよ……留年するぞ」

華純「そんなことより、今は……」

魁斗の目が見開く。

魁斗「そんな、こと……？」

華純「……？」

魁斗「フザけるなッ！そんなことだと！？」

華純「魁斗君……？」

不敵に笑う魁斗。

魁斗「……貧乏人が」

華純「……え」

魁斗「この貧乏人が！学費も払えない分際で医者なんか目指してんじゃねぇよ！」

華純「……魁斗……君……？」

魁斗「お前のせいで……！」

華純の表情が凍り付く。

○同・千明の部屋・寝室（朝）

千明、雨が降ってきたことに気付く。

○同・表（朝）

ゆっくりと魁斗に近づく華純。

華純「魁斗……君……」

華純、魁斗に手を伸ばす。

魁斗「触んじゃねぇ！この……売春婦がッ！」

華純「……ッ！」

魁斗「汚らわしいンだよッ！」

華純「……」

華純の目が据わる。

華純「……黙れ……」

魁斗「……あ？」

華純「黙れ黙れ黙れッ！」

華純、魁斗に傘を投げつける。

華純「なんにも分かんないくせに！なんにも……なんにも……！なに不自由ない人生を送ってるだけで！」

魁斗「……ッ！」

華純「私だってこんなことしたくない！でも、このままだとずっと貧乏なのよ！ずっとずっと！一生！永遠に！」

魁斗「なぜ隠した！なぜ俺に本当のことを言わなかった！なぜだ！俺のこと好きなんだろ！？」

華純「言ってどうするの！？」

魁斗「え……？」

華純「言ったらお金くれるの！？ねえ！くれるの！？くれないでしょ！？それとも何？説教してくれるんだ！同情してくれ

るんだ！有難いことこの上ないッ！」

魁斗「……」

華純「言って欲しいなら言ってあげる！毎日毎日、どんな男に抱かれたか！昨日はどんな要求をされたか！今日はどんなプレイをされるか！明日は何人に抱かれるか！」

目を逸らす魁斗。

華純「偉そうに上から見ないでよッ！単に大病院の家に生まれただけのくせに！」

華純、指輪を地面に叩きつける。

転がる指輪を見つめる魁斗。

千明、傘を持って出て来る。

千明「魁斗！」

華純、千明を睨む。

千明「か、華純……！」

華純「この淫乱女がッ！」

言葉に詰まる千明。

華純「千明もでしょ……」

千明「え……？」

華純「どうせ私のこと哀れな女だと思ってく

るくせに！どうせ風俗でボロボロになればいいと思ってるくせに！どうせ売春で捕まればいいと思ってるくせに！どうせエイズにかかって死んじゃえばいいと思ってるくせにぃ！！」

華純、膝から崩れ落ちる。

千明「華純……」

咽び泣く華純。

呆然とする魁斗。

○聖教医科大学・外観（夕）

○同・中庭（夕）

北澤、南野、西川がいる。

北澤「絶対イカサマやわ」

南野「麻雀弱すぎんだろ」

西川「後１０回は飯奢りな」

北澤「クソが！魁斗はどこ行った！参加せえへんとかセコいわ」

南野「最近見ないな。大丈夫か」

北澤「……」

北澤、遠くの千明に気付く。

北澤「お！千明！」

千明「（振り向く）……」

北澤「魁斗って最近どうしてんのよー？」

千明「（小声で）……知らない」

北澤「え？なんて？」

去って行く千明。

西川「勝負の女神どころか普通の女子にも嫌われてるな」

北澤「……」

北澤、反転して逆方向に歩く。

南野「おい、どうした？今から授業だぞ」

立ち去る北澤。

○東条邸・リビング（夕）

次郎と智子、話している。

智子「何があったのかしら……」

次郎「ほっとけ」

インターフォンが鳴る。

智子「（出て）どちら様でしょうか」
北澤の声「俺、北澤ってもん、」
南野の声「（遮って）突然失礼いたします。私、
魁斗君の友人の南野という者ですが……」
はしゃぐ北澤が画面に映る。
〇東条邸・魁斗の部屋・内（夕）
ベッドにもたれかかっている魁斗。
ペアリングを見つめ、涙を流す。
北澤、南野、西川が入ってくる。
北澤「うぃ―す！」
魁斗「……」
北澤、魁斗の涙を見る。
北澤「何日も休んで何やってんねん。お前が
おらんせいで俺がカモにされたやんけ」
南野「魁斗がいても変わらん」
魁斗「……」
北澤「ちゅう訳で、今からリベンジマッチす
っからよ。逃げんなよ？魁斗」
魁斗「……」

南野「麻雀牌ある？」

北澤「麻雀とかいうクソゲーええて。大富豪に決まってるやろ」

北澤、トランプを取り出す。

○踏切（夕）

カンカンと警報が鳴り響く。

線路の前で立ち尽くす華純。

○聖教医科大学・大講義室・内（夕）

片肘をついて講義を聞く千明。

○東条邸・魁斗の部屋・内（夜）

北澤、南野、西川、机を囲んで大富豪をしている。

ベッドにもたれている魁斗。

南野、カードを場に出す。

南野「（魁斗に）次お前」

魁斗「……」

手札を持ったまま動かない魁斗。

北澤、魁斗の手札から1枚取って場に出す。

北澤「ジョーカーかよ！ざけんな！」

北澤、場のカードを流し、2を出す。

西川「アホなん？」

西川、2を流し、3を出す。

南野も出す。

南野「（魁斗を見る）……」

北澤「テキトーにやってたら後悔するぜ？何てったって大貧民になった奴が全員分の風俗奢るんだからよ」

西川「は？」

南野「また訳分からんことを」

北澤「昨日女にフラれてよ。女の悩みは女で解決や」

魁斗「……」

魁斗、4を出す。

南野・西川「！」

微笑む北澤。

北澤「奢るのイヤなんかよ。現金な奴やで。

でも甘い！」

北澤、9を3枚出す。

北澤「『クーデター』発動！」

西川「あ！？なんじゃそりゃ！」

南野「9を3枚出せば『革命』ができるんだ」

魁斗「……俺の地元には……なかったぞ」

西川「そうだそうだ！マニアックすぎんだろ！誰も知らねぇよ」

北澤「お前らのローカルルールなんぞ知らん！配られた手札とルールの範囲内で勝負してるだけや！」

南野「正論だな。知らない奴が悪い」

西川「どんだけ奢りたくないんだよ」

北澤「こっちはザコい手札で必死に勝とうとしてんねん！イチイチいちゃもん付けんなや」

魁斗「……」

北澤「だろ？魁斗」

魁斗「……」

西川「なら俺も行くぜ！」

西川、3枚の9を流し、Qを出す。

西川「『クイーンボンバー』発動！」

北澤「はあ！？それはナシやろ！」

西川「なんじゃお前！」

北澤と西川、取っ組み合い。

南野「馬鹿かお前ら……」

魁斗、3枚の9を見つめる。

〇歓楽街（夜）

魁斗、北澤、南野、西川がいる。

北澤「また俺の奢りかよ！」

風俗街へ入る北澤、南野、西川。

魁斗、その場に留まる。

南野「どうした？」

魁斗「……俺は……」

北澤「……」

北澤、落ちている空き缶を拾う。

南野「（北澤を見て）……？」

北澤、空き缶を立てる。

距離を取り、助走を付ける。

北澤「うぜぇンだよッ！」

北澤、空き缶を蹴り飛ばす。

南野・西川「！？」

空き缶が魁斗の顔面に直撃する。

唖然とする魁斗。

北澤「……カスが」

魁斗「……あ？」

北澤「器小っちゃいのぉ！何をグダグダ言うとんねん！そんな嫌か、彼女が風俗嬢で」

魁斗「……ッ！」

北澤「逆に俺がナンバーワンにしたる！それくらいの気概で行けや」

魁斗「……なんだと……？」

北澤「どうせやるならトップや。お前もヤリたなったら指名しろ。ほんなら彼女は儲かるし一石二鳥や」

魁斗「……」

北澤「良かったな、パイオニアやん。彼女と金払ってヤるとか史上初やろ」

魁斗「……お前に何が分かんだよ」

北澤「なに感傷に浸っとんねん、気色悪い」
南野・西川「……」
北澤「なんでお前が悩む？金持ちの最大の長所どこ行った」
魁斗「長所……？」
南野「心の余裕……か」
北澤「安心しろ。体を売るのはお前じゃない、傷付くのもお前じゃない。彼女や」
魁斗「……ッ！」
北澤「そうやろが」
魁斗「……俺じゃ……ない」
北澤「彼女勤務医なるんやろ？疲弊具合考えたら案外同じじゃね？知らんけど」
魁斗、意を決したように走り去る。
北澤「……」
南野「北澤、お前って案外……」
北澤「よっしゃあ！1人分安なった」
南野と西村、微笑む。

〇マンション・千明の部屋・リビング（夜）

暗闇で毛布にくるまっている千明。
インターホンが鳴る。

○同・同・表（夜）

ドアの前で待つ魁斗。
千明、ドアを開ける。

魁斗「話があるんだ」

千明「……」

魁斗、ポケットからメモ用紙を出し、
千明の手に握らせる。

『カイト専用診察券』だ。

千明「……ッ！」

魁斗「お礼を言いたくて。千明には本当に助けられた……千明がいなければ今頃俺は……。だから、感謝してる」

千明「……」

魁斗「処方してくれた薬、効いたよ。おかげで解消された」

千明「か、魁斗……？」

魁斗「千明、今までありがとう……さよ

うなら」

立ち去る魁斗。

千明「ま、待って……！」

千明、裸足のまま魁斗を追い、抱きつく。

千明「別に悩み何かなくてもいいの！ちょっとした愚痴とかでいいから！」

魁斗の手にメモ用紙を返す千明。

魁斗「千明……」

千明「……体だけでもいい……だから……」

魁斗、優しく千明を引き剥がす。

魁斗「千明、この恩は一生忘れない」

と、メモ用紙を返し、走り去る。

魁斗の頬に涙が伝う

千明「魁……斗……」

千明、柵にもたれかかり、嗚咽する。

〇同・表（夜）

走り出て来る魁斗。

立ち止まり、肩で呼吸しながら電話を

かける。

○ヘブンズロード・内（夜）

店長、貧乏ゆすりをしている。

トボトボと華純が出勤する。

店長「おい、遅刻だぞ！早く入れ、熱烈なご指名だ」

華純、楽屋に入る。

○同・廊下（夜）

ぼおっとしている華純。

部屋のドアを開ける

○同・部屋（夜）

華純が入る。

ベッドには魁斗が座っている。

華純「……ッ！」

立ち上がる魁斗。

華純「な、なんで……！」

華純、咄嗟に出て行こうとする。

華純の腕を掴む魁斗。

華純「離してッ！」

魁斗「ごめん！華純」

華純「……」

魁斗「ごめん……俺、自分のことしか考えてなくて、華純の苦しみなんか全然考えてなかった……」

華純「なにを今更……あれが本音のくせに……！」

華純、魁斗を振り払う。

魁斗「華純のこと考えてるつもりになってた……金を渡すわけでもないのに、ただ華純を責めて……クソ野郎だ！」

華純「……」

魁斗「でも今は違う！本当に、心の底から華純を支えたい！」

華純「保護者面しないで……！」

魁斗「そうかもしれない……でも、これが俺の本音なんだ！」

華純「……」

魁斗「千明の件も、ごめん……現実を認めないせいで……俺が弱かったせいで……千明は俺を救ってくれた……感謝もしてる……でも、俺は華純といたいんだ！」

華純「……」

魁斗「何の反骨精神もない、ぬるま湯で育った男だけど……もし華純が許してくれるなら……俺は……俺は華純の傍にいたい！一緒に華純の現実を背負いたいんだッ！」

華純「……現実……」

魁斗「俺も一緒に苦悩したいんだッ！」

華純「……本当に……？」

魁斗「もしやり直せるなら……」

華純「魁斗君……」

魁斗「俺たちはひとりじゃなくなる……ひとつになるんだ」

魁斗、香澄に手を伸ばす。

その手を掴む華純。

魁斗「華純……！」

魁斗、華純に抱きつく。

魁斗「どうせやるならナンバーワンになってやろうぜ……それで学費なんかさっさと先払いでもしてやればいいんだ」

華純「……うん」

魁斗「ついでに寄付もしてやろう」

華純「引っ越しも……できるかな」

魁斗「余裕さ。こんなにも強い華純がいるんだ」

華純の目に涙が浮かぶ。

魁斗「今度は鉄筋アパートだな」

華純「（笑って）バカにしてる」

華純の頬に伝う涙。

〇同・表（早朝）

壁にもたれかかり、うたた寝している魁斗。

華純が出て来る。

華純「魁斗君」

魁斗、目を醒ます。

魁斗「お疲れ様、華純」

魁斗、華純と手を繋ぐ。

○買取専門店・外観

看板に『高価買取専門店』とある。

○同・内

華純、立花から貰ったネックレスを店員に出す。

ネックレスを凝視する魁斗。

魁斗「持ってていいんだぜ？」

華純「ううん。束縛激しいから別れたの」

ネックレスを手に取る店員。

○同・表

魁斗と華純、出て来る。

封筒の中の札束を数える華純。

それを見る魁斗、笑いが込みあげる。

華純「どうしたの？」

魁斗「俺は今まで何を見ていたんだろうと思

ってな」

華純「失望した？」

魁斗「いや……これでようやく背負える」

魁斗、華純に腕を差し出す。

笑顔で魁斗の腕に抱きつく華純。

○聖教医科大学附属病院・外観

『聖教医科大学附属病院』とある。

○同・医局・内

魁斗（２４）、スマホを見ている。

医者が入ってくる。

医者「研修医、急患だ！休憩終われ」

魁斗「はい！」

魁斗、スマホを置いて出て行く。

ヒビひとつないスマホの待受画面に映るのは、笑顔で卒業証書を持つスーツ姿の魁斗と振袖姿の華純。

華純の左薬指で指輪が輝いている。

（了）